様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　６ 日現在

機関番号：３４３１４
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ１２３００

研究課題名（和文）『八幡愚童訓』の生成と展開に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Study on the making and broadening of "Hachiman Gudokun"

研究代表者
筒井　大祐（TSUTSUI, DAISUKE）

佛教大学・総合研究所・特別研究員

研究者番号：８０７４０５１３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,200,000円

研究成果の概要（和文）：　中世における八幡信仰を考察するため、その基礎資料とされる『八幡愚童訓』を対象に、その成立や展開を解明するための分析や調査を行った。対象とした『八幡愚童訓』に関しては、代表的本文とされる、石清水八幡宮所蔵菊大路本に対する先行研究の通説を訂正する論考を公刊した。また『八幡愚童訓』の展開例として、熊本県藤崎八幡宮所蔵細川家奉納の絵巻の全巻をカラー写真として、その翻刻、略解題を付けて公刊した。他に、中世の八幡信仰記事の展開として、長門本『平家物語』の八幡記事に関する論考も発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　『八幡愚童訓』は、蒙古襲来における八幡神（八幡大菩薩）の神徳を主題としているため、日本文学だけでなく、歴史学や宗教文化史など学問分野を超えて、研究資料として利用されている。しかし、その『八幡愚童訓』自体の生成や展開などの基本的なテクスト研究は、これまで十分に行われてきたとは言い難い。そこで本研究では、今後の『八幡愚童訓』の基礎としてテクスト研究や、その展開を対象に研究した。
　その成果として、『八幡愚童訓』の諸本研究史を再考した。さらに八幡関連の説話は、『八幡愚童訓』を基に論じられてきたが、『八幡愚童訓』に収斂しない八幡記事の有り方も指摘し、今後の八幡信仰研究に対する新たな研究視点を提示した。

研究成果の概要（英文）：In order to examine the Hachiman beliefs in the Middle Ages, I conducted analysis and research on the "Hachiman Gudokun," which is considered to be a basic source for this belief, in order to clarify its formation and development.
Regarding the "Hachiman Gudokun," I published a paper correcting the prevailing opinion of previous studies on the representative texts of the "Hachiman Gudokun".
As a development of "Hachiman Gudokun," I published a picture scroll in the collection of Fujisaki Hachiman Shrine. And I presented a discussion of the Hachiman article in Nagato version of Heike Monogatari as a development of the Hachiman belief article.

研究分野：日本文学

キーワード：『八幡愚童訓』　八幡縁起絵巻　『八幡宮寺巡拝記』

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究が研究対象とする『八幡愚童訓』は、『古事記』、『日本書紀』を発端とした神功皇后伝承と、神功皇后の御子である応神天皇が八幡大菩薩として崇敬された、中世の八幡信仰の集成とされる文学作品である。この『八幡愚童訓』が主題とする八幡信仰は、その信仰体系の大きさから、日本文学に留まらず、神道史や仏教学、歴史学や思想史、美術史という学問分野を超えた、学際的な研究対象でもある。

『八幡愚童訓』は、蒙古襲来における八幡大菩薩の神徳霊験を主題とした甲本と、八幡大菩薩の神徳霊験を十四か条に亘り記した乙本という二書の同名異書が知られる。また、その編纂目的として、乙本序文に、八幡大菩薩の神徳霊験を「愚童に訓へる」ためと示されており、八幡信仰を童子に教えるために編纂された幼学書という側面もあり、中世における八幡信仰の教化に、広く用いられたと考えられる。

そのような八幡信仰の流布に大きく関わる『八幡愚童訓』は、申請者が専攻する中世文学の分野において、軍記物語や説話文学、室町物語、謡曲等の文学作品に記される神功皇后伝承や八幡信仰を理解するための基礎的資料として、研究書や注釈書類で必ず参照、引用される。また、甲本が蒙古襲来を描写するため、歴史学では、蒙古襲来資料として取り上げられる。

ところが、この『八幡愚童訓』は、これまで八幡信仰や蒙古襲来の一資料として扱われるに留まり、その『八幡愚童訓』自体の成立や展開に関するテクスト研究は、いまだ十分に行われていないという研究史上の問題がある。

２．研究の目的

本研究の目的は、『八幡愚童訓』の成立と展開を検討し、中世の大きな信仰体系である八幡信仰において、『八幡愚童訓』が同時代や後世の文学作品に果たした役割を解明する事である。

『八幡愚童訓』の成立に関しては、同じく八幡信仰の縁起資料である『八幡宮寺巡拝記』が同文説話を有する点から、これまでの研究史においても注意されてきた。ただし、その『八幡宮寺巡拝記』の諸本研究も、これまでの研究では不十分であったため、本研究において、その基礎的な研究を進める。

また『八幡愚童訓』は、八幡縁起絵巻を始め、中世の八幡信仰を語る文学作品にも影響を与えており、現在の研究でも、八幡信仰に関する文学作品の注釈でも、『八幡愚童訓』が参照されることが多い。そこで本研究では、それら中世文学における『八幡愚童訓』の受容を通して、中世における『八幡愚童訓』の展開を考察する。

3. 研究の方法

本研究では上記のように､基本的なテクスト上の問題点さえも共有されていない『八幡愚童訓』の研究課題を解決するために、先ずは基礎的研究として、『八幡愚童訓』本文の生成と展開を関連資料により検討した。

『八幡愚童訓』甲・乙本の二系統の内、蒙古襲来を主題とする甲本は、多くの伝本が現存し

ており、また各伝本の異同も大きい。この甲本の諸本と系統分類は、小野尚志氏『八幡愚童訓：論考と諸本』（三弥井書店、2001年）にまとめられている。小野氏の著書では、これまで知られている諸本すべての書誌解題を示した上で、その本文を比較され、諸本を全十一系統に分類された。しかし、小野氏の著書でも、各諸本の系統樹は不明とされ、古態本の究明にも至っていない。この原因として、小野氏は諸本の本文は比較されたが、『八幡愚童訓』の関連資料を用いて、その生成を検討されていない点が指摘できる。

これまで、『八幡愚童訓』は専ら、八幡信仰や蒙古襲来の資料として取り上げられてきたため、資料としての重要性を認識されながらも、『八幡愚童訓』の生成という問題は検討されてこなかった。また、その本文の形成に利用されたと考えられる関連資料の収集や、それらを基にした、本文の検討も行われていない。このため、『八幡愚童訓』の生成を検討するためには、まず関連資料の収集や内容分析が必要不可欠である。その上で、それらの資料を用いて、その生成過程を明らかにする。

本研究課題のように、『八幡愚童訓』の生成と展開について、関連資料を基に包括的に検討した研究は、これまでほとんどされていない。しかし、本研究は八幡信仰という学際的な課題であり、本研究により『八幡愚童訓』を始めとした八幡縁起類や、それを用いた中世八幡信仰研究に新たな知見を得られる事が期待できる。

４．研究成果

本研究課題について、『八幡愚童訓』のテクスト研究と、中世における八幡信仰の展開に対して、以下の成果を発表した。

2018 年度は、『八幡愚童訓』の生成と展開に関する資料紹介を行った。

まず『八幡愚童訓』の本文の影響が見える、熊本県藤崎八旛宮所蔵の八幡縁起絵巻の新出本の紹介を行った。「「藤崎八旛宮加藤家奉納本八幡縁起絵巻　下巻：影印、翻刻」(『京都語文』26 号）において、これまで未紹介であった絵巻の下巻部のカラー写真と翻刻により、公刊した。これにより、『八幡愚童訓』の展開例である八幡縁起絵巻の新出本を伝本に加えることができた。

次に、『八幡愚童訓』と共通説話を持つ『八幡宮寺巡拝記』の最善本である石清水八幡宮所蔵本の後半部の翻刻を「翻刻石清水八幡宮本『八幡宮寺巡拝記』後 」(『佛教大学大学院紀要. 文学研究科篇 』47 号）として公刊した。これにより、『八幡愚童訓』の生成を考察する資料を提供できた。

口頭発表として、国際ワークショップ「西欧の日本学研究者とのネットワークを通じた日本人若手研究者の国際化―絵写本・版本研究を中心として　「八幡縁起、その流伝と変容―絵巻・神話・地域社会―」」において、「八幡縁起絵巻と『八幡愚童訓』甲本―『八幡愚童訓』甲本の古態本文解明に向けて」というタイトルの口頭発表を行った。この口頭発表では、これまでの『八幡愚童訓』のテクスト研究上の問題点を指摘し、さらに、その古態本文を考察する方法として、『八幡愚童訓』の本文を有する八幡縁起絵巻を用いた。

平安京文化研究会において、「長門本『平家物語』大隅正八幡宮縁起考―六郷山縁起をめぐって」というタイトルの口頭発表を行った。この口頭発表では、これまで『八幡愚童訓』の影響を指摘されてきた長門本『平家物語』の大隅正八幡宮縁起の記事に対して、六郷山に伝来した縁起類から『八幡愚童訓』に拠らない記事の生成を指摘した。

2019 年度は資料紹介として、熊本県藤崎八旛宮に所蔵される『八幡縁起絵巻』の新出本の紹介を、「藤崎八旛宮細川家奉納本 八幡縁起絵巻 上巻 ： 影印、翻刻 」(『京都語文 』27 号） として、カラー写真と翻刻により、公刊した。この伝本は、これまでの諸本研究史で知られていなかったものであり、本成果により、『八幡愚童訓』の展開例として、新たな資料を提供できた。本年は、紙幅の関係で、上巻部を紹介した。

2020 年度は、2018 年度に口頭発表した「「長門本『平家物語』大隅正八幡宮縁起考」の内容を論文化して、「長門本『平家物語』と大隅正八幡宮縁起 ―六郷山縁起を視座として― 」(『佛教大学総合研究所紀要』28 号 ）として発表した。この論文により、これまで中世の八幡信仰記事の研究では、主に『八幡愚童訓』を参照され、考察されてきたが、『八幡愚童訓』に収斂しない八幡信仰記事の有り方を示した。

資料紹介として、「藤崎八旛宮細川家奉納本 八幡縁起絵巻 下巻 ： 影印、翻刻 」(『京都語文 』28 号） を公刊し、前年度の上巻部の紹介と合わせて、藤崎八幡宮所蔵細川家奉納本の絵巻の全容をカラー写真と翻刻により明らかにした。

2021 年度は、論文として『八幡愚童訓諸本研究史再考』(『佛教大学総合研究所紀要 』29 号）を公刊した。この論文は、2018 年度に、「八幡縁起絵巻と『八幡愚童訓』甲本―『八幡愚童訓』甲本の古態本文解明に向けて」の内容の一部を成稿化したものである。

この論文では、これまで『八幡愚童訓』甲本の代表的本文として、研究に用いられてきた日本思想大系『寺社縁起』所収本が、テクストとして不適切な事を指摘し、今後のテクスト研究の問題点を提示した。この成果は、今後の『八幡愚童訓』のテクスト研究の基礎となるものである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 筒井大祐	４．巻 29
２．論文標題 『八幡愚童訓』諸本研究史再考	５．発行年 2022年
３．雑誌名 佛教大学総合研究所紀要	６．最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 筒井大祐	４．巻 28
２．論文標題 長門本『平家物語』と大隅正八幡宮縁起ー六郷山縁起を視座として―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 佛教大学総合研究所紀要	６．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 黒田彰、筒井大祐	４．巻 28
２．論文標題 藤崎八旛宮細川家奉納本 八幡縁起絵巻 下巻 ： 影印、翻刻	５．発行年 2020年
３．雑誌名 京都語文	６．最初と最後の頁 5-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 黒田彰、筒井大祐	４．巻 27
２．論文標題 藤崎八旛宮細川家奉納本　八幡縁起絵巻　上巻：影印、翻刻	５．発行年 2019年
３．雑誌名 京都語文	６．最初と最後の頁 5-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 黒田彰、筒井大祐	4．巻 26
2．論文標題 藤崎八旛宮加藤家奉納本　八幡大菩薩御縁起　下巻：影印・翻刻	5．発行年 2018年
3．雑誌名 京都語文	6．最初と最後の頁 5-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 筒井大祐	4．巻 47
2．論文標題 翻刻　石清水八幡宮本『八幡宮寺巡拝記』後	5．発行年 2019年
3．雑誌名 佛教大学大学院紀要・文学研究篇	6．最初と最後の頁 145-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 筒井大祐
2．発表標題 長門本『平家物語』と大隅正八幡宮縁起考－六郷山縁起をめぐって
3．学会等名 平安京文化研究会
4．発表年 2018年

1．発表者名 筒井大祐
2．発表標題 八幡縁起絵巻と『八幡愚童訓』甲本―『八幡愚童訓』甲本の古態本文解明に向けて―
3．学会等名 西欧の日本学研究者とのネットワークを通じた日本人若手研究者の国際化―絵写本・版本研究を中心として　「八幡縁起、その流伝と変容―絵巻・神話・地域社会―」（招待講演）
4．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関